

Title	金利自由化の進展と都市銀行のマネジメント・コントロール・システム - 支店の利益管理システムを中心として -
Sub Title	
Author	荻野浩三(Ogino, Kouzou) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第744号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0744

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	荻野 浩三 (株式会社 太陽神戸三井銀行)	主査	伏見多美雄
		副査	柳原 一夫 柴田 典男
所属	伏見多美雄 研究室		

金利自由化の進展と都市銀行の
マネジメント・コントロール・システム
－ 支店の利益管理システムを中心として －

都市銀行を取り巻く数々の環境変化のなかでも、ここ数年の金利自由化進展は、従来の銀行の収益構造を覆すインパクトを与えているようだ。すなわち、規制金利の枠の中で「量」を追求すれば必然的に利益が上がる時代は過去のものとなり、利益そのもの、あるいは資産収益率（ROA）等の「質」重視の戦略へ、転換を迫られている。しかしながら、銀行経営の根幹である支店経営を見ている限り、目標設定や業績評価、またこれらの中核をなす利益管理方式等においては、旧態依然とした「量」偏重の姿勢が根強く残っており、支店管理という意味では、新しい戦略にマッチしたマネジメント・コントロール・システムはまだ確立されていないと言ってよい。そこで本論文では今後の本格的な金利自由化時代に向けて、今後の都市銀行が必要とする新しいマネジメント・コントロール・システムを、簡単な仮説事例に基づいて検討し、いくつかの新しい管理手法についての提案を試みるものとする。

論文は、7つの章によって構成されている。まず第1章、第2章で問題意識及びその背景、研究目的、方法などを述べる。

第3章から第6章迄が本論であり、まず第3章では支店の利益管理の中核をなす本支店レートに内在する問題を中心に、現在の利益管理方式の矛盾点を指摘する。第4章では支店経営に対する本部スタッフの立場から、現在の目標設定方式や業績評価の欠点を指摘する。第5章、第6章では、3章、4章で明らかにされた管理方式の欠点を改善するための諸提案を試みる。

第7章はまとめの章であり、以上の議論を踏まえた上で、今後の都市銀行のマネジメント・コントロールのあり方を包括的に述べ、また今後の課題についても言及する。